

早稲田大学 社会科学部 政治・経済 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	大問4題は例年と同じ。小問40題は多い。 政治、経済理論、環境問題、国際経済と経済の比重が大きい。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	地方自治	問1は憲法の条文、間違いは許されない。 問2 aと問4の住民投票については資料集を丹念に読んでいけば対応できたはず。 問5道州制については、この議論の歴史を踏まえ、ニュースで現状を押さえておくのは受験生には難しいだろう。「地方自治の本旨」をもとに考えれば、選択肢を絞ることはできる。	やや難
II	公害・環境問題	問1～3は間違えてはならない。 問4は資料集とニュースで、問5・問6は、ニュースとそれをもとにした推理力で対応するしかない。	やや難
III	世界経済のしくみと動向	小問は独立しており、知識を問うている。 問6以外は標準的な内容である。問6は受験生には難しい。	標準
IV	日本企業の多国籍化	問4以外は標準的知識で説けるはず。問1・3・6・9の文章の正誤判定は受験生レベルでは判断に苦しむものもあるが、これは誤りとハッキリわかる選択肢がある。 問4の年代は細かい。	標準

〔総合コメント〕

早稲田大学の他の学部よりは答えやすい問題が多い。ニュースを丹念にフォローしなければわからない設問もあるが、標準の問題で確実に得点できれば差をつけられることはないだろう。